

巻 頭 言

私が本会の会長就任を要請され、これをお引受けしてから間もなく3年になろうとしております。その間、当医会の法人化を第一の懸案事項としていたことは変りなかったわけですが、初期の頃には法人化の絶対的な必要性が十分に理解出来ない時期もありました。しかしその後、常に進歩しつつある適正透析(透析法の選択を含む)生体腎幹旋問題、死体腎移植の推進、末期腎不全患者の社会復帰など、それぞれのテーマで具体的な実施活動の場をみつめ、さらに今後の透析医療ならびに種々の段階の腎不全への対応には進歩した医学的知識の社会への導入と選択および普及と実践に、行政当局や医師会と緊密な協力のもとで能率的に実効を挙げるため、日本透析医会の法人化の絶対的な必要性が痛感されました。

すでに昭和54年4月に発足している都道府県透析医会を母体とし、21世紀へ向っての新しい組織造りの上に立って、行政当局や日本医師会のご指導のもとに当医会雑誌も第2巻・第2号通巻5号の発刊となりましたが、これまで発刊された各号によっても本会の巾広い有意義な活動をご理解頂けるものと思います。そして去る1月末、日本透析医会の法人化につき日本医師会のご承認を得ましたことは当医会の皆様のご努力によるものと感謝しております。

2巻2号では韓国からの特別寄稿をはじめ各地の現況や長期透析患者における重要な合併症について啓蒙されております。今後も益々有意義な日本透析医会雑誌が次々と刊行されるものと期待されますが、このような実績のもとに立派な事業計画を作製中であり、近く社団法人の申請手続が行われる運びとなりましたことをお伝えして、ご挨拶とさせていただきます。

昭和62年3月

日本透析医会

会長 稲生 綱 政